

広島県まちづくり実行委員会 活動報告

報告日 2007年1月16日(火)

報告者 福屋労働組合 氏名 三満 謙介

開催日 2007年1月12日(金)

開催場所 福屋労働組合事務所

参加者 朝村・三満・石川(福屋労組)、梅田(カネの田中労組)、川畑、野坂(全ふじおか)

内容 「ろうきん森の学校」学習会 中国労働金庫広島県営業本部 工藤専任役

10年プロジェクトとして富士山・福島・広島の3地区で行われている「ろうきん森の学校」について学習会を行いました。運営は“NPOひろしま自然学校”が行っており、開校してまだ1年強という短期間の活動にたくさんの人が参加し環境整備に携わっています。全国的に森の荒廃が進んでおり、森の再生を通じて「人」と「地域」を育てることが目的、単なる森づくりではなく「気持ちを育む」活動が近郊で行われていることを学びました。

『まちづくりフォトアルバム』



「ろうきん森の学校」の取り組みについて講演頂いた中国労金広島県本部の工藤専任役。

「まず活動を知って頂き、現地を見て頂きたい。森は労金のもではなく、みんなのものなのでから」



活動を紹介する「森の学校だより」。3地区の活動報告と今後の活動予定が記載されています。

広島地区は“枝打ち体験”や“しいたけ菌打ち”、春休みにはキッズキャンプなどが計画されています。

まとめ・感想 労働者の金融機関「ろうきん」がCSRの一環として行っている「森の学校」活動が、全国3地区、しかもその一つが広島県で活動しているということで学習会を実施しました。基本的に労金は資金援助的な活動で、運営はNPO法人が行っているということですが、「森づくり」を通じて「人づくり」という目的は大変共感できるものでした。広島市内中心部より車で1時間程度という近郊にもかかわらず、知られておらず(実行委員メンバー全員知りませんでした)今後実際に活動に参加することも検討可能です。広島県の森林率は72%と非常に高く、広義の「まち(広島県)」と捉えれば、「森」も「まち」構成する大切な資源です。広狭様々な視点での「まち」を意識する機会となったのではないのでしょうか。